

ると本当に子どもたちのことをよく見ていて、愛情に溢れた素晴らしい先生でした。卒業式の時には、涙を流して送り出してくれたことを覚えています。

さて、今の子どもたちはどんな過ごし方をしているでしょうか。今の先生、大人たちは子どもたちとどのように接しているのでしょうか。自分の思い出を美化している部分もありますが、私は何となく昔より窮屈な時代になったなと感じております。情報がたくさん手に入り、いろいろなことが便利になったのは素晴らしいことですが、その分やっではないけないこと、言っではないけないこと、危険なことが増えた気がします。

あらゆる場面において、もっととおおらかに、自由にいろいろなことができないかなあと、周りに対しても、自分に対しても思うことが多々あります。変えるべきものと、変化の中にあっても変わらないものをしっかりと見定めて、大人も子どもも、のびのびと暮らせる世の中になると良いなと思う今日この頃です。



会員の声

「蜷川の思い出」

佐久間 祥吾

(昭和三十三年卒業)

私が子供の頃の蜷川は、今のような三面張りの水路ではなくて、所々の落差工は石積で出来ていたが、一般水路部分は素掘りのままでした。従って、カーブの部分では外側が深く掘れていて、その深い所は一年生では背が立たない位の所もあり、その上は草で覆われていました。

夏休みになると、その場所に集まってきて、水遊びをしたものでした。そんな所で夏休み中遊んだ為か、谷熊の男の子は皆泳ぎが出来たと思います。

また、堤防には、ヤマカガシ、アオダイショウ、シマヘビ、マムシ、トカゲ等が沢山いました。ヤマカガシをつかまえて、上衣の下に隠して女の子が来ると、バツと出して驚かしたものでした。川の深みには、フナ、ウナギ、モロコ、メダカ、アメリカザリガニ、タニシ、ドジョウ等が沢山いて、よく捕ったものでした。

今、蜷川を探しても、これらの魚類を見ることは出来ません。夏になって、よく見かけるのは、有害害獣に指定されている、外来種のアカミミガメです。これは駆除しなければいけないでしょう。

また、野鳥も昔とは、だいぶ変わっています。昔より数が増えたのは、カラス、ムクドリです。減ったのは、スズメ、ツバメ、メジロ、ヒバリ、ウグイス、モズ、ツグミ、ハト、トビ、キジ、カモです。そして、全く姿を見なくなったのは、ホホジロとウズラです。どこに行ってもまったのでしよう。

草焼きも昔の思い出です。草が乾燥する春先に、村中の人が出で、一斉に火を付けて、全部燃してしまふのです。今思うと、この作業を行うことにより、害虫駆除も出来たのではないでしょう。

蜷川周辺に生息している魚類、鳥類、草木類、総てが住民と共存共栄すべきと考えますが、いかででしょうか。そして、自分の意志で行動出来る人間は、自然破壊を行わず、生きて行くべきと考えて、毎日を過ごしていきます。

「これからの私」

長南 侑奈

(平成二十七年卒業生)

小学生の時は、二十歳は立派な大人だと思っていました。ですが、実際二十歳になり、立派な大人どころか、大人になれていないのかも危うく思います。

私の小学校の頃の夢はパン屋さんになることでした。両親が自動車関係の仕事だったためか、絶対に自動車関係の仕事には就きたくないと、あの頃は思っていたのにも関わらず、今しっかりと自動車関係の仕事に就いています(笑)。あの頃の夢とはかけ離れた仕事をしていますが、この仕事に就いて後悔はないし、人に恵まれて、とてもいい環境で仕事ができます。ですが、少しでも興味を持ったことを追求し、その道に進んでいたらどうなっていたんだろうな?と思うことがあります。もちろん専門のことを学ぶ大変さはあると思いますが、一つのことを学び続けることが、私からすればとてもカッコよく思います。なので、今年は興味のある資格を取

得することと、新しい趣味を持つためにいろんなことに手をつけていこうと思います!

私と同じように高校卒業後就職した子もいれば、大学や専門学校に進学した子もいます。ですが、どちらにおいてもコロナウィルスの状況下であったため、自分のやりたいことができず、思い通りにいかなくて悔しい思いをすることがたくさんありました。ですが、もうコロナウィルスを理由に自分の夢や理想を諦めたくはないし、できなかった、やらなかった理由がコロナだったからとも言いたくありません。なので、この状況下でもがきながら頑張っている同級生を見ると、自分も頑張らないと!と思うことができます。同級生の子たちと高め合いながら、お互い立派な大人に近づけるよう、頑張りたいと思います。

